

July 27, 2021

【前日の為替概況】ドル円、反落 対ポンド中心にドル売り強まった影響で円買い・ドル売り先行

26日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反落。終値は110.39円と前営業日NY終値(110.55円)と比べて16銭程度のドル安水準だった。対ポンド中心にドル売りが強まった影響を受けて、円買い・ドル売りが先行。6月米新築住宅販売件数が予想より弱い内容となったことも相場の重しとなり、一時110.16円付近まで下押しした。

ただ、安く始まった現物のダウ平均が持ち直すと投資家のリスク回避姿勢が和らぎ全般円売りが優勢に。ドル円も110円台半ばまで下げ渋った。日本時間夕刻に付けた日通し安値110.12円や前週末の安値110.09円、22日の安値110.01円などが位置する110円台前半では下値の堅さが目立った。

もっとも、市場の関心は27-28日の米連邦公開市場委員会(FOMC)に集まっており、方向感の乏しい展開だった。NY時間に限れば値幅26銭程度の狭いレンジ取引。

ユーロドルは上昇。終値は1.1803ドルと前営業日NY終値(1.1771ドル)と比べて0.0032ドル程度のユーロ高水準だった。対ポンド中心にドル売りが進んだ影響を受けて、ユーロ買い・ドル売りが先行。予想を下回る米住宅指標もユーロ買い・ドル売りを促し、一時1.1817ドルと日通し高値を付けた。

ポンドドルは一時本日高値となる1.3833ドルまで上昇した。英国の新型コロナウイルス感染者数がここ数日で落ち着いたことからポンドを買う動きが広がったもよう。

ユーロ円は続伸。終値は130.29円と前営業日NY終値(130.11円)と比べて18銭程度のユーロ高水準。欧州序盤は一時129.68円まで値を下げる場面もあったが、NY市場では買い戻しが優勢に。米国株式市場で主要3指数が史上最高値を更新すると、投資家のリスク・オフの動きが後退し円売り・ユーロ買いが出た。2時30分前には一時130.35円と本日高値を付けた。

代表的な暗号資産(仮想通貨)であるビットコインは失速した。アジア時間に伝わった「米アマゾン・ドット・コムはビットコインを決済通貨として受け入れる準備をしている」との観測報道を手掛かりにNY市場でも買いが進行。対ドルで一時4万ドル台に乗せて、6月15日以来約1カ月ぶりの高値を更新した。ただ、米アマゾンがこの観測報道を否定すると一転下落し、3万7300ドル台まで上げ幅を縮めた。

【本日の東京為替見通し】ドル円はレンジ抜け出せないか、明日のFOMCまでは動きにくい

本日の東京時間のドル円もレンジを抜けだすのは難しいか。昨日はアジア時間に23日高値の1銭手前の水準で上値は止められ、下値も同日安値の3銭手前で支えられ、前営業日のレンジすら抜けることができなかった。本日から米連邦公開市場委員会(FOMC)が開催され、明日に結果が発表されることを考えると、多少昨日のレンジを超えることはあったとしても大きなレンジを作るような相場にはなりにくそうだ。米国入り後には米国から6月の耐久財受注額をはじめ、複数の経済指標の発表が予定されている。しかしながら、上述したようにFOMCの結果並びにパウエル米連邦準備理事会(FRB)議長の会見が終了するまでは、市場参加者がリスクを取りにくい地合いとはならないだろう。

市場への直接的な影響は現時点では軽微だが、米国の政治状況と新型コロナウイルス感染拡大には目を向けておきたい。「インフラ投資法案」は週末を含め様々な話し合いが行われたがいまだに進展していない。上院での再採決にも至っていないが、下院では民主党のカリフォルニア州選出議員が、移民制度改革なければ法案を支持しない方針を表明するなど、今後の法案の行方がより不透明になりつつある。ウイルスに関してはデルタ株の感染拡大により、既存の渡航禁止令を維持することが発表されている。また、一部の州では医療従事者のワクチン接種が義務付けられるなど、今後の進展次第では米国の経済回復期待に水を差す可能性もある。

ユーロドルは、昨日も先週のコアレンジを超えられずにいる。本日はユーロ圏のマネーサプライM3やデコス・スペイン中銀総裁の講演以外に主だった予定がないことで、市場が動意づくのは難しそう。ただし、ユーロポンドが4月上旬以来割り込んでいない、0.8500ポンドを割り込むようなことになった場合は、欧州通貨も動意づくだろう。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 6月企業向けサービス価格指数（予想：前年比1.3%）
- 16:30 ◎ 黒田東彦日銀総裁、講演（日本記者クラブ）

<海外>

- 17:00 ◇ 6月ユーロ圏マネーサプライ M3（予想：前年比8.2%）
- 20:00 ◇ 6月メキシコ貿易収支（予想：17.00億ドルの黒字）
- 21:30 ◎ 6月米耐久財受注額（予想：前月比2.1%／輸送用機器を除く前月比0.8%）
- 22:00 ◇ 5月米住宅価格指数（予想：前月比1.6%）
- 22:00 ◎ 5月米ケース・シラー住宅価格指数（予想：前年比16.4%）
- 23:00 ◎ 7月米消費者信頼感指数（予想：123.9）
- 23:00 ◎ 7月米リッチモンド連銀製造業景気指数（予想：20）
- 23:00 ◎ デコス・スペイン中銀総裁、講演
- 28日 02:00 ◎ 米財務省、5年債入札
- 米連邦公開市場委員会（FOMC）1日目

28日

<国内>

- 08:50 ◇ 日銀金融政策決定会合における主な意見（7月15-16日分）

<海外>

- 10:30 ◎ 4-6月期豪消費者物価（CPI）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

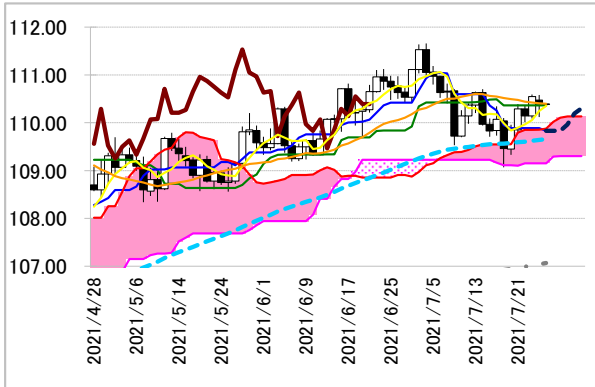
26日 20:10 ブリハ英金融政策委員会(MPC)委員
「次に金融刺激策が必要になった場合には-0.50%または-0.75%まで政策金利を引き下げても問題ない」
「今回の高インフレが短期的である可能性が高いという事実について考えは変わっていない」
「少なくとも数四半期は現在の金融刺激策を維持することは正しい」

27日 00:45 王毅・中国外相
「米国の中国に対する一方的な制裁や関税を撤廃するよう求める」
「米中関係改善のための正しい選択は米国次第」
「バイデン政権による中国への抑圧強化に反対」

27日 02:17 米ホワイトハウス
「新型コロナウイルスのデルタ株感染が拡大しているため、渡航制限を維持する」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

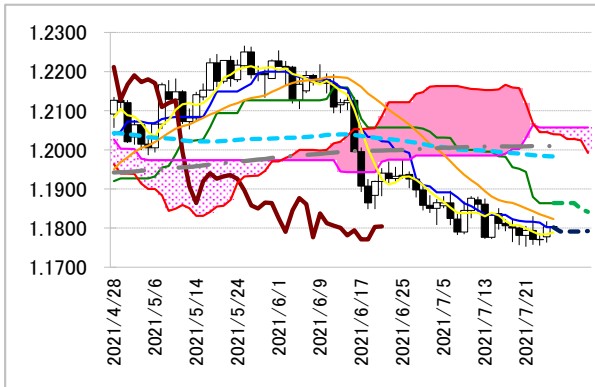


<ドル円=長い下ひげ形成して下げ渋り、基準線を回復>

下影小陰線引け。値幅は限られるが、上値の重さをやや感じさせる陰線で引けた。一方、下値での底堅さを示唆する長い下ひげを形成して下げ渋り、一目均衡表・基準線 110.37 円を回復して NY を引けた。

底堅さ維持が期待できる。下押ししても、上昇傾向の一目・雲の上限 109.88 円や、本日の 109.83 円で底打ちする見込みの転換線が支えとなるだろう。

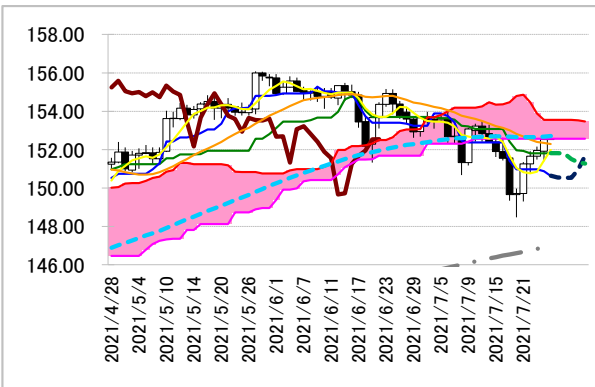
| | |
|----------|---------------------|
| レジスタンス 1 | 111.19(7/5 高値) |
| 前日終値 | 110.39 |
| サポート 1 | 109.83(日足一目均衡表・転換線) |
| サポート 2 | 109.33(7/20 安値) |



<ユーロドル=転換線が切り上がり相場を押し上げるか>

陽線引け。低下傾向の一目均衡表・転換線 1.1802 ドルをこなしつつある。現状からすれば同線は明日 1.1791 ドルへ小幅に低下。相場は横ばいでも日柄経過とともに転換線を上回る見込み。下支えになるとともに、来週にも同線は上昇し、相場の押し上げに寄与する公算が大きい。ただ、戻り局面に 1.1820 ドル台で低下中の 21 日移動平均線や、やはり低下傾向の一目・基準線が控えており、動きを重くする可能性がある。

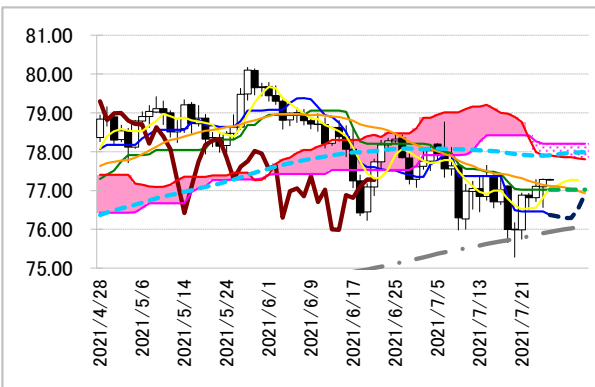
| | |
|----------|---------------------|
| レジスタンス 1 | 1.1864(日足一目均衡表・基準線) |
| 前日終値 | 1.1803 |
| サポート 1 | 1.1752(7/21 安値) |



<ポンド円=雲に押し返されてもやがて底堅さ回復へ>

下影陽線引け。一時 152.61 円と、一目均衡表・雲の下限 152.57 円を試す展開となった。こなしきれず押し返された場合、まだ低下傾向の一目・基準線 151.81 円は強い支えにならないかもしれない。しかし、代わって下値 150.64 円に位置する一目・転換線が、小幅な下押しを経て今後切り上がり、下支えになる見込み。底堅さを回復できるだろう。

| | |
|----------|--------------------------|
| レジスタンス 1 | 153.30(7/14 高値) |
| 前日終値 | 152.53 |
| サポート 1 | 151.87(7/26 レンジ 38.2%水準) |



<NZドル円=基準線付近のレンジ維持を予想>

下影小陽線引け。一時 76.56 円へ下振れたものの、一目均衡表・基準線 77.02 円を回復し、小さいながら底堅さを示す陽線で引けた。基準線付近のレンジ維持を予想する。同線付近で低下中の 21 日移動平均線に追従した反落も想定できるが、まだ低下傾向の一目・転換線 76.37 円が今後大きく切り上がり、基準線付近へ上昇してくる見込み。現水準付近のサポートが増加する状況で、下値不安は広がりにくいだろう。

| | |
|----------|---------------------|
| レジスタンス 1 | 77.90(日足一目均衡表・雲の下限) |
| 前日終値 | 77.29 |
| サポート 1 | 76.56(7/26 安値) |

